

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0194100418号		
法人名	株式会社 あしのメディカル		
事業所名	グループホーム和喜あいあい(ユニットA)		
所在地	釧路市星が浦大通3丁目9番29号		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 6年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoyoCd=0194100418-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoyoCd=0194100418-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年12月1日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人ひとりの想いを大切にしています。ご本人の希望をご家族と協力し出来る限り叶えられる様、支援しています。訪問看護ステーション、協力医療機関が隣にある為、体調がご心配な時にも直ぐに相談できます。平屋建ての為、気軽に外出できる利点があり、温かい季節は外過ごす時間を沢山持っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は新興住宅街にある。同敷地内に協力医療病院・訪問看護ステーション・老健、保育園などがあり、スーパーなどの商業施設が隣接するなど立地条件に恵まれている。事業所は玄関を境にユニットが左右に分かれており、共用空間も広くゆったりとしている。浴室も職員が介助し易い浴槽が設置されている。職員も利用者も明るく、穏やかな生活空間を醸し出しており、事業所の名前の「和やかに喜び」を感じられる日々を過ごせるよう支援を行っている。隣接の系列病院との祭り協力も得られ、利用者には喜ばれている。管理者と職員とはコミュニケーションもよく会議での意見や提言など相談しやすい環境にあり、管理者は職員の話をよく聞き、運営に反映させている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識した支援を心掛けている。概ね達成出来ている状況。	開設時の理念から管理者・ケアマネージャー・職員とで理念の見直しをしている。新人研修時には理念を踏まえたケアに繋がるよう指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会と良い関係が築けており、地域の一人としての地域活動に参加させて頂いている。	町内会に加入し資源回収・敬老会・年3回のごみ拾いに参加している。隣接病院の夏祭りに参加している。介護福祉士養成専門学校の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し事業所の取り組み実績などをご報告させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍は書面開催で会議を行っていたが、今年度より対面での会議を再開。町内会より2名、民生委員、包括支援センター職員をメンバーとしている。活発な意見交換、情報交換ができた良い時間となっている。	2ヶ月に一回運営推進会議を開催している。事業所活動状況やヒヤリハット事例などを報告している。委員メンバーの地域包括支援センター職員からの看取り事例を共有し、運営につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都度相談させて頂き丁寧に対応して頂いている。情報も都度メールなどで発信して頂いている為、安心してサービス提供が行えている。	市担当者とは処遇改善加算などの経理面の他に、事業所の実情やケアサービス、介護保険の更新、生活保護手続き、医療機関利用などについて都度相談し、助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置しており適切なケアが提供されているか委員会職員で検討、評価を行い結果を全職員に周知させている。また会議内容は運営推進会議内でも報告している。適時、勉強会も行って職員員の共通理解を図っている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開催している。会議資料や報告書を職員に回覧し、併せて研修を実施している。身体拘束の対象となる具体的な行為を理解し、共有しながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置しており適切なケアが提供されているか委員会職員で検討、評価を行い結果を全職員に周知させている。また会議内容は運営推進会議内でも報告している。適時、勉強会も行って職員員の共通理解を図っている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は作っていない。各自の判断に任せている。管理者、ケアマネが対応する為、介護職員が携わる機会は無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネが行っている。 契約時は、トラブル防止の為にもご家族に十分な理解、納得を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の近況報告、電話での連絡、月に1度の手紙での状況報告を行い、その中でご家族から意見が出た場合は参考にさせて頂いている。別にホーム窓際にご意見箱を設置し要望に対応している。	事業所からの通信には家族向けに宛てたメッセージを添えている。家族への重要事項伝達には手紙を書いて報告し、意見を求めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度代表者との会議を設けており、ホームの運営状況を報告、相談している。管理者、ケアマネが参加し職員からの意見、要望を取りまとめ報告。都度、対応して頂いている。	定期的な会議で職員の意見を聞き入れ、最近では環境改善意見としてテラスの改築が行われている。職員シフト問題は日常的であるがその都度対応している。現在有給休暇についても会議が持たれて改善が提案されている。	管理職が介護現場・職員管理・経理・対外交渉・行政対応など多方面に仕事集中している。管理者の病気等の不在時に困ることが予想される。部下への上位職の代行など実施して職員の仕事の幅を広げることが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は良好な職場環境の整備に力を入れてくれている。その結果、離職者も少ない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、ケアマネに一任されている。 研修などへの参加も希望が有れば、全て対応して頂ける環境。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、同業者との情報交換の機会を作って頂いている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前から事前の情報収集を行い、ご本人が納得し安心したサービスを受けられるように最大限の努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは常に良好な関係を築いていける様に努力している。いつでも話しやすい、相談しやすい関係を目標としている。全てのご家族と良好な関係、協力体制を築けていると感じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階から、しっかりと話し合うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を一緒に行う事を大切にしている。家事活動をメインとした生活リハビリを主体に活発な生活を支援できる様、心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を得られる様に報告、相談は欠かさない様に心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まだまだコロナの影響も残っている為、積極的には行えない現状。面会は、コロナ以前の状態に戻している。	利用者の理容、美容は馴染みの店舗を利用している。利用者が大切にしてきた神社祭りや町内会の敬老会に参加したり自宅までのドライブをするなど馴染みの関係を継続支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、相性を考慮し良い関係が築ける様に支援させて頂いている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了したご家族が顔を出してくれることもあり、そういった事を踏まえようと努力した結果と思われる。					
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ尊重できる様に取り組んでいる。	歌好きな利用者にはカラオケ大会出場・俳句好きの利用者には新聞投稿などを支援している。表現の困難な利用者には家族からの情報やケア場面での気づきを大切に、会議等の中で本人本位に検討している。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報は大切にしている。利用開始前、利用後と常に情報収集は欠かさず、新しい気づきは職員間で共有し支援に活かしている。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートなどを活用し現在の本人の状況の把握に努めている。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意向や身体状況をご家族と相談、また介護職員の意見を取り入れた介護計画を作成。計画は6ヶ月毎に見直している。	モニタリングは職員や本人、家族、関係者で実施している。その後管理者が介護計画を立案して検討し、利用者家族の同意を得て現状に即したケアプランを作成している。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌、個人経過記録、個人情報ファイル、情報共有ノートを使用し職員の気づきや工夫を活かす取り組みを行っている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まりごとや設定せず常に利用者主体を心掛けているので臨機応変に対応できる体制が整っている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動には積極的に参加させて頂いている。自主的な地域清掃も利用者と共にしている。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からの掛かり付け医がある場合は、そのまま継続して受診できるように支援させて頂いている。	かかりつけ医は家族同行を基本としている。場合によっては担当職員も同行し日常のバイタルなどの資料を持参している。家族の希望がある場合は協力医の受診を行い適切な医療が受けられるよう支援している。				

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの往診が有り、全利用者の健康確認を行って頂いている。また24時間いつでも相談に乗ってくれる為、介護職員は安心してきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院発生時より医療機関との連絡、相談は欠かさず行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応、看取りについての指針の設定が有る。ご家族とは、しっかりと話し合い対応させて頂いている。	入居時に看取り指針を本人・家族に説明をしている。体調の変化に伴い看取り時期が到来した時は主治医からの説明を職員と家族で共有している。出来る限りの対応をチームで行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル設定が有る為、それに基づき対応する事は可能。隣接し協力医療機関、訪問看護ステーションが有る為、緊急時は、両者に相談するなど対応の幅が有る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した訓練は実施している。地域で行う訓練も以前は有り、協力体制は有る。	火災訓練は年2回実施している。地震・津波を想定した避難訓練を隣接する病院の3階と屋上に避難場所として実施している。事業継続計画は策定中で職員との共有がなされている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本を守りつつも、その方との関係性の中の言葉使いが有るが自然な事と考えている。ご家族には、そういった状況時は出来るだけ報告、説明。利用者の笑顔を引き出せる関係を理想としている。	人格の尊重を「大切にしていること・もの・精神・誇りを否定しない」ことを職員同士が共有している。個人情報管理をデジタル化してプライバシーの確保に務めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は行動のきっかけ作りを大切にしており、利用者の興味、意欲を引き出すことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臨機応変に対応する事、利用者優先で対応する事を約束としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族の意思決定に任せている。個性的な方も多くおり、それも日々の楽しみ事となっている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理から片付けを行う事が約束となっている。	予めメニューの予定は決まっているが利用者の要望を取り入れ、急遽焼き肉などにも対応している。利用者の食形態に合わせてミキサー食などを提供している。季節食のおはぎや冬至のカボチャ等にも対応している。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を確認できるチェック表を使用している。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関の歯科往診、口腔ケア実施が週に1回有る。また歯科医より口腔ケア指導も時々あり、清潔を保つ為の知識など職員の理解度が増している。					
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛けている。個々の排泄パターンの把握、理解、支援に努めている。	各自のバイタル・水分チェック・排泄表をもとに排泄予測をしている。退院後に起こるおむつ使用をリハビリパンツに移行してトイレでの自立排便を支援している。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物、飲み物、運動の大切さを全職員が理解し支援に活かしている。					
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週に2回以上の入浴の提供。本人が希望する場合は、いつでも対応出来る様に心掛けており、拒否の有る方には入りたくなる工夫を欠かさず行っている。	入浴は週2回以上を基本に利用者が入浴介助担当者を選択することが出来るように支援している。入浴回数や時間帯など利用者により添った対応をしている。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね利用者の皆さんは良眠されている事から、そういった支援体制が整っていると思われる。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個人ファイルに綴っており、内容を確認、理解出来る様に努めている。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、外出、制作活動など様々な選択肢を提供しご本人が楽しめる時間を作り出せる様に支援している。					

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣散歩、買物同行、ドライブなどは定期的に支援している。	利用者はいつでも好きなときに内庭を散歩している。気分転換にドライブで出かけたり、買い物同行などの支援をしている。紅葉が見たいとの要望に阿寒鶴居方面の紅葉狩りに行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族に希望が有る場合、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によりいつでも可能。携帯電話を所持している利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内装飾については、コロナの影響で飾っていない。共用スペースでは皆さん穏やかに過ごされている事から問題は無いと感じている。	共用空間は常に暖かく適温を保っている。居間食堂は調理場が近く常に調理音・湯気・料理の匂いがただよい五感を刺激している。調光もカーテンの開け閉めや照明電源の入・切をこまめにするなど居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多くの椅子、ソファを用意しており一人になれたり、皆と一緒に過ごす場所を作り出している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の意思決定に任せている。	利用者の居室がわかりやすいように表札をつけている。間違っって他の利用者が入らないように工夫している。職員が入室の際は声かけし、業者が入室する場合は管理者が同行している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境的には問題ないと思われる。		